

子どもの言語発達と家庭でのテレビ視聴

お茶の水女子大家政 香取 淳子

目的：幼児期は子どもにとって最初の言語獲得期であるばかりでなく、子どもがテレビに夢中になり始める時期でもある（NHKの調査では、3歳児の視聴時間がもっとも長いと報告）。一方で、テレビ視聴は子どものことばの発達を阻害するという見解もある。はたして現実はどうなのだろうか。これまで4人の幼児を対象に幼児の視聴行動についての縦断的研究を実施してきたが、その観察データをふまえ、以下の手順で研究を実施した。本研究では、幼児の言語発達と家庭でのテレビ視聴との関連を、大量データで検証することを試みる。

方法：昭和60年10月26日から11月29日にかけて東京都板橋区内の児童館（全33か所のうち、地域特性を考慮し、10か所を選定）の幼児クラブに通う幼児の母親（23歳から46歳、平均年齢32.4歳）に対し、幼児の生活行動およびテレビ視聴行動についてのアンケート調査を実施した。その結果、3歳6か月から4歳9か月までの幼児405名（男児209人、女児196人）についての有効回答を得た。

結果：すこしでも「ことばの遅れ」のある子どもは177人、そうでない子どもは226人であった。テレビ視聴との関連でいえば、「ことばの遅れ」のない子どもは、「ことばの遅れ」のある子どもに比べ、教育番組、名作アニメ番組などをよく見ている子どもが多い、好きな番組のテーマソングを模倣することが多い、等々がわかった。また、男児には「ことばの遅れ」のある子どもの多いことも明らかになった。